

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録（2014.12）平成25年度:33.

NICU入院児の父親が育児参加するために必要な看護支援

佐藤 聡美, 佐々木 弥奈

NICU 入院児の父親が育児参加するために必要な看護支援

旭川医科大学病院周産母子センター NICU ○佐藤 聡美、佐々木弥奈

キーワード：NICU、父親、育児

I. はじめに

近年、母親の育児負担が増加しており、支援者として父親の存在が重要である。しかし、NICU 入院児の父親は育児に消極的な事があり、育児参加促進が重要である。父親の育児参加に必要な支援を明らかにするため、調査を行った。

II. 目的

NICU 入院児の父親が育児参加するために必要な看護支援を明らかにし、育児参加を促す看護実践について検討する。

III. 研究方法

1. 研究期間：平成 24 年 8 月～11 月
2. 対象：出生体重 2000g 以下の NICU 入院児の父親 3 名
3. データ収集方法：対児感情評定尺度¹⁾を用いたアンケート調査を、①入院 1 週間以内、②初めて抱っこ・カンガルーケアした時期、③コット移床後の 3 回実施した。この尺度で示す子どもへの正と負の感情の対立は育児行動を猶予させるため、正の感情を高め負の感情を低くする関わりが育児参加の促進に有効と考えた。③の時期に、対児感情評定尺度を元に時期ごとの感情の変化・看護師の関わりを聞き取り調査した。
4. データ分析方法：対児感情評定尺度は接近得点と回避得点を単純計算し、拮抗指数を求める。聞き取り調査から、看護師の対応・子どもへの思いが変化したきっかけを抽出する。

IV. 倫理的配慮

施設内の倫理委員会の承認を得た。研究内容、個人情報保護、公表等について口頭と書面にて説明し同意を得た。

IV. 結果

1. 対児感情評定尺度：3 名とも③の時期に接近得点が増加・回避得点が減少し、拮抗指数の低下がみられた(表 1)。
2. 聞き取り調査：A 氏は育児参加の促進により、「出来る事がわかり積極的になれた」と話した。B 氏は看護

師からタッチングの説明がなかったが、「母親から聞いた。触れる時期で子どもへの思いは変わらない」と話した。C 氏は「何でもしたいから伝えてほしい」と、育児参加の促しを求めている。子どもへの思いが変化したきっかけについて、A 氏・C 氏ともに③の時期に「表情がわかるようになった」と話し、B 氏は②の時期で「父親の自覚が芽生えた」と話した。

(表 1) 対児感情評定尺度の結果

	A 氏			B 氏			C 氏		
	①	②	③	①	②	③	①	②	③
接近得点	18	28	31	26	21	27	17	18	21
回避得点	4	6	4	4	0	0	3	6	4
拮抗指数	22	21	12	1	0	0	17	33	19

(点)

V. 考察

3 名とも、徐々に接近得点が増加し回避得点の減少がみられ、聞き取り調査からも思いの変化がみられた。花沢²⁾は、「育児動機の形成と発達は、性的要因よりもむしろ生育史上の乳児との接触体験に大きな影響を受けている」と述べており、子どもに触れる機会を持てるような関わりが必要である。また、看護師の対応として、A 氏・C 氏は説明や育児参加の促しを求めている。B 氏は看護師からの説明がなかったが母親から方法を聞きタッチングできていた。このことから、他者からの説明・促しが、父親が育児参加するために必要な支援である。子どもの出生当日は、父親の面会頻度が多い。この時期に、詳しい病状と今後の経過について、タッチング・母乳口腔内滴下の方法と効果、パンフレットを用いたカンガルーケアなどの説明を両親に必ず行い、父親が子どもに触れる機会を持てるようにする必要がある。

VI. 結論

父親が育児参加するためには、他者からの説明や促しにより子どもに触れる機会を持てるよう支援する必要がある。

引用文献

- 1) 花沢成一著：母性心理学 (1), 医学書院, p241,1992.
- 2) 前掲書 1), p105.